



カラコエ

76 編は 指揮者によって。伴奏付き。賛歌。アサフの詩。歌。とあり、どんな風に指揮し、どんな楽器で伴奏したのかと、想像したくなります。

1 連は、神はユダに御自らを示され／イスラエルに御名の大きいなることを示される。(2) という言葉から始まります。詩人は選ばれた民族の名をはっきりと示します。

次に 神の幕屋はサレムにあり／神の宮はシオンにある。(3) と、ダビデの町エルサレムで、神は礼拝されていると歌います。これらはイスラエル民族にとって最高に誇らしいことであり、他の諸民族、諸国と画する点です。

最後に、イスラエルの神は **そこにおいて、神は弓と火の矢を砕き／盾と剣を、そして戦いを砕かれる。**〔セラ と、戦争、争いの道具、手段を破壊し、戦争そのものを破壊する、と神の個性、性質、品格を明示します。神は戦争ではなく、平和を求める方です。民も詩人も、戦争は最悪の悲劇、苦難、滅亡への道であることを、身をもって知っています。異国には戦争の勝利のために軍神を礼拝するところもあるでしょう。けれどもイスラエルの神は戦争そのものを滅ぼし、裁く神であると賛美しています。

あなたが、餌食の山々から／光を放って力強く立たれるとき(5) と、平和の神が力を発揮される時には **勇敢な者も狂気のうちに眠り／戦士も手の力を振るいえなくなる。(6)** **戦車も馬も深い眠りに陥る。(7)** と、敵味方なく、無力になると言います。ただ、**狂気のうちに眠り** という言葉が不気味です。戦車や馬はただ眠りに陥るだけですが、戦士は **狂気のうちに** という言葉があるように、狂気にさせられていることを示しているのです。

3 連で、**あなたこそ、あなたこそ恐るべき方。怒りを発せられるとき、誰が御前に立ちえよう。(8)** と、神が戦いを滅ぼすために立ち上がる時には、誰も神の前には立てないと歌います。2 連で、戦士も戦車も軍馬も、すべて眠りに陥ったのですが、神の怒りで殺され、滅ぼされたとは書いていません。神が **あなたは天から裁きを告知し** と、天から裁きを告知すると、**地は畏れて鎮まる。(9)** と、敵も味方も畏れて鎮まるのが、戦いの終結の姿です。その結果、**地の貧しい人をすべて救われる。〔セラ(10)** と貧しい人の救いがまず第一になされます。**怒り猛る者もあなたを認める(11)** と、戦争をしようとする人々も神を力を知ると記しています。詩人は神の裁きを全ての人を知ることによって、全ての人が生きて歌っています。現実的とは思えないと思う人に **あなたたちの神、主に誓いを立て、それを果たせ。取り囲むすべての民は／恐るべき方に貢ぎ物をもたらすがよい。地の王たちの畏れる方は／支配者の霊をも断たれるであろう。(12)** と、支配者でも力を失うと警告しています。

『讚美歌 21』には関連する讚美歌がありませんが、私は 578「平和を求めよう」 [讚美歌のページ \(rgr.jp\)](https://www.rgr.jp/) を賛美します。その中で 3 番「主の平和求め 共に祈ろう 城壁の内にも、その外にも」が 76 編の趣旨に合っていると感じます。ジュネーブ詩編歌はリコーダーによる二重奏の軽やかで親しみやすい曲です。 [Psalm 76 Genevan Psalter - setting by Claude Goudimel - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=...)